

まえがき

各種ライフライン施設の耐震設計手法やマイクロゾーニング手法等の工学的な考察を行う上で、地震動に及ぼす局所的な地形・地盤条件の影響の解明は、最も重要な研究課題の一つである。国土交通省国土技術政策総合研究所では、高密度強震観測施設を整備し、影響の解明に必要な地震観測記録の収集を構内に観測施設を整備して昭和54年度に開始した。

その後、昭和56～59年度には、静岡県の駿河湾に沿った相良地区、焼津地区、沼津地区、松崎地区の4地区に合計47地点の観測点を整備して、施設の拡張を実施した。さらに平成7～8年度には、老朽化が進んだ駿河湾沿岸4地区の観測施設をオンライン観測が可能なシステムに更新するとともに、新たに神戸西地区、神戸東地区、小田原地区、幕張・習志野地区、館山地区の5地区に高密度強震観測施設を整備した。

本資料は、平成7～8年度に更新・新設された高密度強震観測施設について、平成12年4月から平成14年3月までに観測された59地震766記録（2298成分）の加速度強震記録を整理したものである。巻末には、強震観測場・観測システム・観測装置の現況及び更新・新設後の保守・点検状況を示している。

危機管理技術研究センター	地震防災研究室	室長	日下部 毅明
	同	主任研究官	上原 浩明
	同	研究員	松本 俊輔